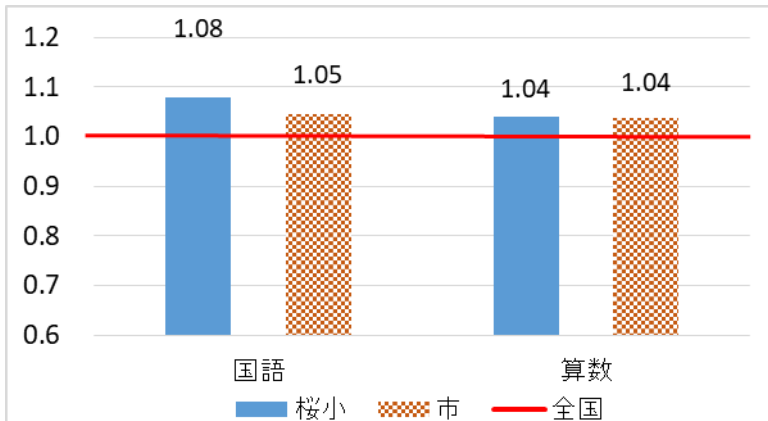


○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

全体として全国の前平均正答率を5.7ポイント上回る良好な結果であった。特に「話すこと・聞くこと」は+9.8ポイント、「書くこと」は+7.9ポイントと全国を大きく上回っている領域があり、これまでの取組の成果が見られた。一方で、漢字の書き取りにおいて全国を6.9ポイント下回る設問があった。今後も国語科の授業において児童が主体的に表現する学習活動を重視するとともに、すべての教科の授業において様々な語句や表現を扱うことで、児童の語彙力を高め、漢字の定着を図る。

【算数】

全体として全国の前平均正答率を3.2ポイント上回る良好な結果であった。特に「数と計算」は+6.7ポイント、「変化と関係」は+10.9ポイントと全国を大きく上回っている領域があり、これまでの取組の成果が見られた。一方で、面積の比較とデータを二次元表に分類・整理する2つの設問で、全国を約9ポイント下回っていた。今後も算数科の授業において問題解決的な学習を推進していく。児童が自ら見通しをもち、既習事項を活用して問題を解決する数学的活動を通して、学習内容の定着を図る。

【質問紙調査】

「授業におけるICT機器の使用頻度」の設問で、全国を大幅に上回る割合であった。課題としては、「1日あたりのゲームの時間」が全国と比べて非常に多いことが挙げられる。ゲームやスマホ等の使用のルールを家庭で設定し、適切な活用ができるよう注意を促し、指導していく。

○学力向上の取組

【中学校区】

- ・毎回の授業に対して、責任とプライドを持った「真心の授業」の実践
- ・子どもたちの学力向上に向けた具体的方策の確立（主体的な学習者の育成）
- ・各種学力テスト及び質問紙、アンケート等の分析を通じた、結果と課題の共有
- ・分析結果を利用した課題克服の手立ての共有、家庭学習の定着と自主学習の推進
- ・校区3校の公開授業の推進

【学校】

- ・短い期間でのPDCIサイクルを活用し、日常的な授業改善に学校全体で取り組む。
- ・自主学習に積極的に取り組むことで児童の学習意欲を高め、授業の学習と家庭学習を結び付け、学習内容の定着を図る。